令和3年度 市民歴史講座

# 地域の歴史を城館（じょうかん）から探る

全4回

**会　場**

**二戸市民文化会館 中ホール**
令和3年11月21日・令和4年1月30日

**浄法寺文化交流センター**
令和3年12月5日・令和4年2月13日

13時30分～15時（13時開場）

**申し込み・お問い合わせ**

二戸市埋蔵文化財センター
（TEL.0195-23-8020）

**入場無料** 要申し込み 定員100名

※なお、第2回はフィールドワーク予定のため、定員40名となります。
※当日は、新型コロナ感染症対策のため、マスク着用の上ご来席ください。

**第1回**　令和3年 11月21日（日）
## 史料から読み解く戦国の城の日常
講師　竹井英文 氏（東北学院大学文学部歴史学科 准教授）

**第2回**　令和3年 12月5日（日）
## 浄法寺城を歩く －巨城の規模と構造－
講師　室野秀文 氏（考古学研究者）

**第3回**　令和4年 1月30日（日）
## 種里城と津軽西海岸の城館遺跡
－津軽に進出した南部氏と城館－
講師　中田書矢 氏（鰺ヶ沢町教育委員会 総括学芸員）

**第4回**　令和4年 2月13日（日）
## 城跡が語る地域の歴史
講師　斎藤慎一 氏（江戸東京博物館 学芸員）

福田館

## 第1回　令和3年11月21日(日)

# 史料から読み解く戦国の城の日常

講師　竹井 英文 氏

東北学院大学文学部歴史学科 准教授

### 講演概要

戦国の城というと、一般的には戦いのイメージが強いと思います。しかし、考えてみれば、城の一生のなかで戦いが繰り広げられた時期はごくわずかで、大半は日常の時間だったはずです。

では、戦国の城の日常とはどのようなものだったのでしょうか。これまでも、発掘調査をふまえた考古学的な研究によってその一端が解明されていますが、文献史料を用いて文字情報から解明する作業は、史料の少なさもあってあまり進んでいません。そこで本講座では、他地域の史料が中心となりますが、史料から読み取れる当時のリアルな城の姿をご紹介して、戦国の城のイメージをより豊かにして頂こうと考えています。

## 第2回　令和3年12月5日(日)

# 浄法寺城を歩く
## －巨城の規模と構造－

講師　室野 秀文 氏

考古学研究者

### 講演概要

浄法寺城は、糠部西門(ぬかのぶにしのかど)を領した、浄法寺氏の居城跡。旧浄法寺町教育委員会の発掘調査の成果から、14世紀から16世紀末までの期間、城が存在したことが明らかになりました。城は先端部の八幡館のほか、大館、西館、新城館、北館などの曲輪(くるわ)で構成され、糠部の拠点城館の中でも、有数の規模を誇ります。今回は浄法寺城の遺構を現地で歩きながら、城跡の見どころを紹介しつつ、浄法寺城の内容に迫ります。

## 第3回　令和4年1月30日(日)

# 種里城と津軽西海岸の城館遺跡
## －津軽に進出した南部氏と城館－

講師　中田 書矢 氏

鰺ヶ沢町教育委員会 総括学芸員

### 講演概要

戦国時代の青森県津軽地方は、港湾都市・十三湊(五所川原市)を支配していた安藤氏(安東氏)が南部氏に攻められて北海道へ退去して以降、津軽奪還を図る安藤氏と南部氏の激しい合戦の場となっていました。

延徳3年(1491)、九戸郡下久慈(岩手県久慈市)の領主であった南部光信は、軍勢を率いて津軽西海岸の種里城(青森県鰺ヶ沢町)に入ったとされます。後に、光信から5代目の大浦(津軽)為信が三戸南部氏に反旗をひるがえし津軽藩を開くこととなります。

安藤氏、南部氏、津軽氏の攻防の舞台となった津軽西海岸の城館遺跡について、発掘調査された種里城跡を中心に、立地や構造等の特徴をご紹介します。

## 第4回　令和4年2月13日(日)

# 城跡が語る地域の歴史

講師　斎藤 慎一 氏

江戸東京博物館 学芸員

### 講演概要

東北地方から関東地方東部の中世城館は、いわゆる日本史として語られている地域とは異なり、列島の中で独自の地域を形成していました。

これまで東日本では、畿内近国と比べて、歴史を解明するための古文書が著しく少なく、その歴史も明らかではありませんでした。

しかし古文書の集成が進み、中世考古学が導入されたことで、東北地方でも地域の歴史が彩鮮やかに語られるようになりました。平安時代末期の城館の出現・独自の語彙で語られる城館・南部家といった在地領主の実像などです。そして豊臣政権・徳川幕府と時代が連なるなかで中央と一体化している様子が見えるようになっていきます。そのような地域の歴史の一断面を語ってみたいと思います。